

---

## 頭痛で発症した椎骨解離性動脈瘤の治療について

Q14. 頭痛で発症した椎骨解離性動脈瘤といわれましたが  
治療法はいかがですか

A14. 椎骨解離性動脈瘤の発症様式は主に3種類あります。  
あなたのような頭痛で起こる方が30%、くも膜下出血でなるかたが30%、  
めまいなどの脳梗塞の症状でなる方が30%程度おられます。  
治療の主体はくも膜下出血と脳梗塞を防ぐことに尽きます。  
頭痛で発症した急性期3週間の間は出血や梗塞になりやすいので  
入院が必要です。血管撮影を1ヵ月後、6ヵ月後、1年後は最低受けてください。  
場合によっては3DCTやMRAでも結構です。  
瘤の増大がなければ外来で経過をみます。

答えですが頭痛で発症して1ヶ月経過していれば手術は必要ないと考えます。  
今後瘤の増大があれば手術をすることになる可能性があります。  
手術はコイルで詰める血管内手術と開頭して行うクリッピング、クリッピングとバイパス手術を  
合わせた手術があります。いずれも10-20%程度の合併症があり、多くの症状はめまい、  
嚥下障害です。

---